

第40表 う歯の業態別発現率 34年 5 月

		男	女
生産者世帯	有 症 率	71.9	75.6
	1人当り本数	5	6
消費者世帯	有 症 者	72.2	77.3
	1人当り本数	5	6
その他の世帯	有 症 率	68.8	75.1
	1人当り本数	5	6

発生率が増加しているが20才以上になると相違がない。これは終戦後に生れた児童、青少年のう歯発生率が増加したためであるが、この傾向が乳歯のみでなく永久歯においても同様な状態になるか否か今後の動向が注目される。

なおう歯の1人当りの本数は31年度の時と変わらず結局、う歯を有する者の増加が顕著であるのに反し、う歯そのものの本数にはそれ程の差がないことになる。

3) 業態別発生率

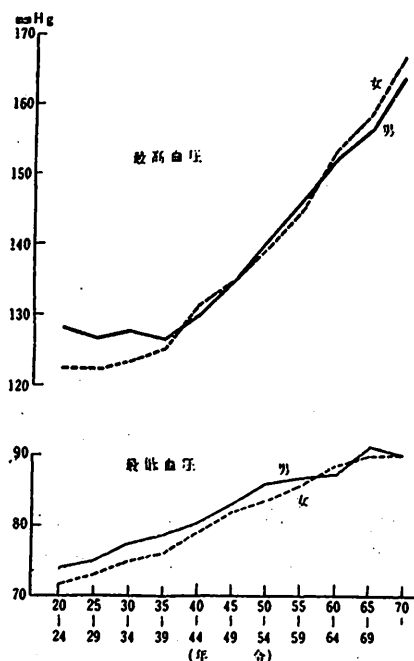
次に34年度のう歯の発生率を各業態に分けて観察してみると、有症率の平均値では、消費者世帯の男子72.2%、女子77.3%に比し、生産者世帯はそれぞれ71.9%、75.6%と若干低く、その他の世帯は更にこれを下回っている。

各年令区分によりみると、一般に消費者世帯の方が高いが、ただ5～9才においては男女とも生産者世帯の方が3～5%多く、またその他の世帯は各年令とも大抵生産、消費の両世帯を下回っている。

7. 血 圧

血圧については昭和31年度より20才以上の男女について調査を行つているが、33年度に血圧区分を従来の101～110、111～120から100～109、110～119の如く変えたので、平均値はやや高くなり、直接推移を比較することはできないから、今回は34年度の調査結果についてのみ記述する。又、血圧のうち最低血圧については、従来エツチンゲルスワン氏聴診点の第4点を測定していたが、34年度より第5点をとることにした。これにより最低血圧の値が多少変わるのではないかと想像されたが33年度と比較して殆んど差が見られなかつた。

第18図 性別血圧平均値の比較

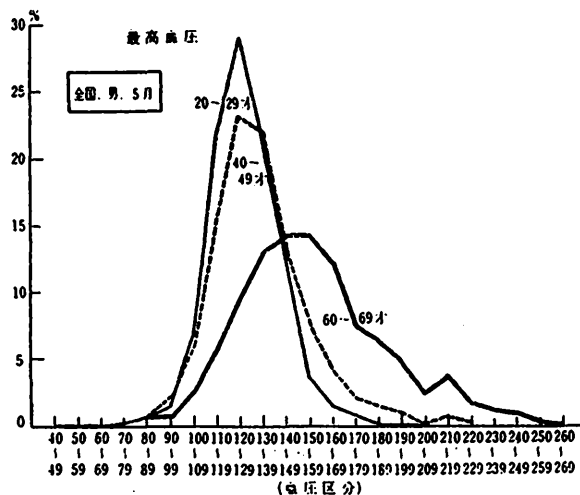


性別・年令階級別平均値

まづ性別、年令階級別にみると最高血圧、最低血圧とも年令とともに増加しているが、その増加率は最高血圧の方が大きく60～64才になると、男女とも高血圧と考えられる150 mmHg 以上となり70才以上になると更に増加し、女子では170 mmHg 以上に達する。これに対し、最低血圧では年令による上昇率は小さく65～69才で90 mmHg 以上となり、70才以上になつても、それ程の増加はみられない。又性別にみると最低血圧では一般に男子より女子の方が低いが高令者の最高血圧は女子の方がかえつて男子よりも高いことが注目される。

次に全国男子の最高血圧について20才代、40才代、60才代の別に血圧の分布状態がどのようになつていのかをみてみると、20才代では120 mmHg を頂点とした正規分布に近い曲線を描いているが、40才代、60才代と年令の増加するに従つて、その山

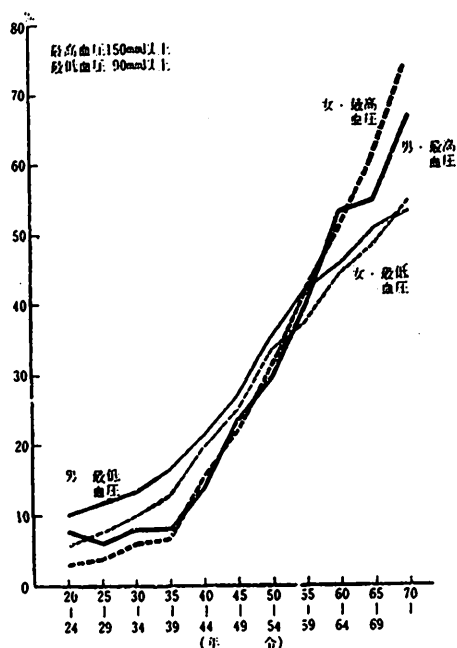
第19図 年齢階級別血圧分布表



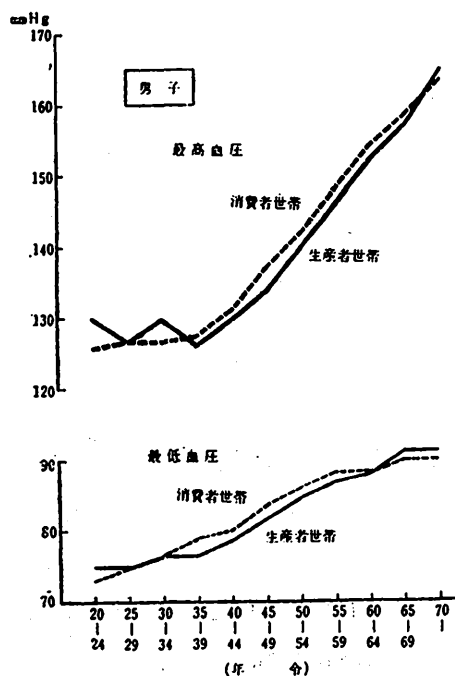
は低く、かつ高い方の値に向つて移動し、その分布範囲も
 広がっている。ただ、この場合興味のあることは血圧の上
 限は年齢とともに次第に高くなるが、下限は余り移動せず、
 60才代の高年者でも20才代の若年者と同じように血圧の低い

者が存在するということである。女子においても大体同様な傾向を示すが、女子の方が20才代の分布曲線
 の頂点は男子より低く 100 mmHg であり、しかも40才代の曲線との間には男子よりも明確な頂点の移動が
 みられる。なお、このこのような血圧分布のうち高血圧に属するものが何%位いるかについて検討してみ
 るとまづ高血圧そのものの定義が問題であるが、一応最高血圧 150 mmHg 以上、最低血圧90 mmHg 以上を高

第20図 性別・高血圧比率(全国・5月)



第21図 業態別血圧平均値の比較



れる。すなわち、最高血圧では男女とも39才までは10%以下で
 あるが、60~64才で50%以上に達し、70才以上の女子では70%
 と大多数の人が高血圧症の範ちゆうに属するようになる。これ
 に対し最低血圧では65~69才で約50%になる程度で最高血圧程
 著しい増加は見られない。

次に生産、消費の両世帯について、血圧平均値を比較してみ
 ると、まづ男子の場合には若年者の最高血圧と高年者の最低血
 圧を除くと、一般に消費者世帯の方が高い。すなわち最高血圧
 では20~24才で消費者世帯の平均値は生産者世帯より 4 mmHg
 も低いが55~39才以上になると消費者世帯の方が 1~3 mmHg 程
 高くなる。又最低血圧では消費者世帯の平均値は大体 1 mmHg
 程度生産者世帯より高いが65才以上で却つて逆になつてい
 る。

2) 業態別平均値

これに反し、女子の場合は農村における生活環境を反映して

か殆んどすべての年齢層を通じて最高最低とも生産者世帯の方が高くなっており、特に60～64才では最高血圧で6 mmHg最低血圧で3 mmHg も高い。

なお、その他の世帯は、最高、最低とも大抵生産、消費両世帯の中間の値を有している。

8. 食 材 料 費

ここでいう食材料費とは、摂取した全食品について購入、自家生産、貰い物等の別を問わず、すべて市場価格に換算して一人一日当りの平均を示したものである。

第41表

1人1日当り食材料費および比率

		金 額				構 成 比				対 前 年 比			
		全 国	生産者世帯	消費者世帯	その他の世帯	全 国	生産者世帯	消費者世帯	その他の世帯	全 国	生産者世帯	消費者世帯	その他の世帯
		円	円	円	円	%	%	%	%	%	%	%	%
総 額		105.64	93.71	115.87	90.46	100.0	100.0	100.0	100.0	+2.4	+1.0	+4.5	-0.9
穀 類		38.13	40.89	36.34	36.02	36.1	43.6	31.4	39.8	-1.9	-4.5	-0.7	+1.3
い も 類		2.49	2.47	2.49	2.61	2.4	2.6	2.1	2.9	+0.8	-2.4	+2.5	+7.4
豆 類		5.49	5.27	5.74	4.64	5.2	5.6	5.0	5.1	-3.9	-4.2	-2.3	-15.5
魚 介 類		13.63	10.54	16.08	11.93	12.9	11.2	13.9	13.2	+1.1	+8.3	+0.3	-3.5
肉 ・ 卵 ・ 乳		13.90	7.27	19.29	8.81	13.2	7.8	16.6	9.7	+3.2	+9.5	+17.6	-7.7
野 菜 類		6.34	6.20	6.47	6.05	5.9	6.6	5.6	6.7	+0.6	+3.5	-0.6	+1.2
果 実 類		5.38	3.82	6.70	3.50	5.1	4.1	5.8	3.9	+3.7	-6.1	+11.5	-10.2
そ の 他		20.28	17.25	22.76	16.90	19.2	18.5	19.6	18.7	+8.4	+11.3	+7.9	+5.4

1) 全国1人1日当りの食材料費

全国1人1日当りの食費は105.64円（うち動物性食品の入手に要した費用は27.53円）で前年の103.12円を2.4%上回っている。なお、これを食品群別にみると、総額中に占める米類の比率は30.0%，小麦4.2%，大麦1.8%，穀類全体では36.1%となっており、穀類の比率は前年より1.6%低下している。

副食費では魚介類の占める割合が12.9%，獣鳥肉類6.6%，野菜類6.0%，豆類5.2%，果実類5.1%，卵類4.1%となつている。調味・嗜好品の占める割合は11.0%と前年を2.2%上回り、食生活の内容が年々豊かになつてきていることを示している。次に食品別にみて対前年比の増加したものは嗜好品の14.4%を初めとして乳類13.9%，卵類11.9%，獣鳥肉類10.2%，油脂4.9%等で高級な食品の増加率が目立つている。反対に減少したものは緑黄色野菜5.4%，豆類3.9%，穀類1.9%等である。

季節的にみると2月が最も高く108.56円、11月が最も低く、103.56円でその差は5.00円である。

2) 業態別1人1日当り食材料費

業態別にみると消費者世帯の食材料費が最も高く115.87円、生産者世帯93.71円、その他の世帯は90.46円である。

そのうち動物性食品に要した費用は消費者世帯35.37円、その他の世帯20.73円、生産者世帯17.79円で消費者世帯は生産者世帯に比べて総額において23.6%，動物性食品については98.8%と倍近くを要している。

このように生産者世帯では自家生産できる植物性食品が主体となつているため、購入を必要とする動物性食品等は相変らず低く偏った食生活を行つていることが、これからもうかがわれる。